

2024年5月5日（復活節第6主日、B年）

牧師メッセージ

「互いに愛し合いなさい」

（ヨハネによる福音書15：9-17）

司祭ヨセフ太田信三

今日の使徒言行録にこうあります。「このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。」わたしたちはあたり前のようにクリスチャンとかキリスト者という言葉を使いますが、当初はその集団はユダヤ教の一派に過ぎませんでした。しかし、アンティオキアではユダヤ教とは異なる集団として、「キリスト者」として認知されるようになっていた事がわかります。つまり、「どうやらこの集団はユダヤ教の人々とは違う」と思わせる「なにか」があったのでしょう。

ヨハネの手紙にこうあります。「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。いまだかつて神を見たものはいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内に留まってくださり、神の愛がわたしたちの内で全うされているのです。」このことから分かるのは、アンティオキアの「キリスト者」たちの姿が周囲の人々に伝えたものは、たんなる「善良な人々」とかいうこの世的なイメージにとどまるものではなかったということです。「キリスト者」と呼ばれた人々、愛の実践に生きた人々が伝えたものこそ、「神の愛」であったのです。つまり、「どうやらこの集団はユダヤ教の人々とは違う」と思わせる「なにか」こそ、「神の愛」だったのです。「いまだかつて神を見たものはいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内に留まってくださり、神の愛がわたしたちの内で全うされている」からです。「キリスト者」が互いに愛し合っているところに、神の愛が全うされます。そして、その神の愛が人々へ伝わっていくのです。それこそが、「宣教」の本質にほかならないのではないのでしょうか。つまり、わたしたちが神の愛をいただき、神の愛を知るものとして互いに愛し合っている、生きようとするところにこそ、神の愛が全うされ、その神の愛が人々へと伝わっていくこと。そうして「神の愛の家族」が広がっていくことこそが宣教であり、教会が宣教共同体として生きているということです。

主イエスは、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたを選んだ」と言われ、わたしたち一人ひとりに神の愛を溢れんばかりに注いでくださいます。その愛をいただいたわたしたちがその愛を互いに持ち寄るなら、この世界に愛が溢れます。「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」これは、主イエスからの「命令」です。わたしたちが真の喜びの中を生きることができるとを心底願い、命をささげてくださいました方の「命令」です。この命令に従う者＝キリスト者として生きていきましょう。